

# 論文審査の結果の要旨

2024年2月7日

学位論文題目 抗がん薬の適正使用を行うために必要な情報に関する検討

学位申請者 菊池 健

審査委員	主査	佐藤 秀紀	
	副査	小松 健一	
	副査	齋藤 佳敬	

申請者は抗がん薬の DVO を実施した場合、溶解後 24 時間の室温・散光条件下で安定な用時溶解製剤と液剤では、抗がん薬使用額を削減可能であることを示した。また、AZA のような DVO が不向きとなる製剤では、投与量に応じた新規製剤規格を追加することで調製時の残液による廃棄額の削減が可能となることを示した。さらに DVO を実施する場合に懸念される抗がん薬バイアルの細菌汚染について、代表的な院内細菌を用いて作用機序の異なる 6 種類の殺細胞性抗がん薬と混合し、5-FU のグラム陽性菌およびグラム陰性菌への抗菌活性と、カルボプラチンとパクリタキセルのグラム陰性菌への抗菌活性を明らかとした。5-FU についてさらに調査し、0.8  $\mu\text{g}/\text{mL}$  以上の濃度の 5-FU が *S. aureus* の増殖を有意に抑制することを明らかとした。さらに R-CHOP 療法ではレジメン開始時の GNRI < 92 で FN や血液毒性の発現のリスクが高くなることが示された。また、DLBCL の初回 R-CHOP 療法の TTF に影響を及ぼす因子としてレジメン開始時の PS2 以上、血清アルブミン値 2.8 未満、GNRI 92 未満が示された。

以上より、本研究で得られた知見は、抗がん薬の適正使用を通じて医療費の軽減に貢献し、患者の栄養状態を基にして安全に治療を継続するための重要な情報をもたらすものである。以上のことから、本論文は本学の博士論文として評価に値するものと認定した。

2024年2月7日

北海道科学大学大学院

薬学研究科長 殿

審査委員

主査 佐藤 秀紀



副査 小松 健一



副査 齋藤 佳敬



## 学位論文審査、試験及び学力確認報告書

学位申請者 菊池 健

上記の者提出の学位論文の審査、試験及び学力の確認を実施した結果、  
合格と認定しましたので、論文審査の結果の要旨、試験及び学力確認の結果  
の要旨を添えて報告いたします。

# 学 力 確 認 の 結 果 の 要 旨

2024 年 2 月 7 日

学位申請者 菊 池 健

審査委員 主 査 佐 藤 秀 紀



副 査 小 松 健 一



副 査 齋 藤 佳 敬



試問により英語学力を含む学力確認を行った結果、博士課程を修了したものと同等以上の学力を有すると認定した。

# 試験の結果の要旨

2024年2月7日

学位申請者 菊池 健

審査委員 主査 佐藤 秀紀



副査 小松 健一



副査 齋藤 佳敬



学位論文を中心とした関連科目についての試験を行った結果、合格と認定した。

2024年2月5日

審査委員主査

佐藤 秀紀 殿

審査委員 齋藤 佳敬



## 学位論文審査、試験及び学力確認報告書

学位申請者 菊池 健

上記の者提出の学位論文の審査、試験及び学力確認を実施した結果、合格と認定しましたので報告いたします。

学位論文 題 目	抗がん薬の適正使用を行うために必要な情報に関する検討		
学位論文審査報告	判 定	合 格	
結果の要旨	学位論文審査の結果、本論文は本学の博士論文として相応しいものと認定した。		
試 験 報 告	判 定	合 格	
結果の要旨	学位論文を中心とした関連科目についての試験を行った結果、合格と認定した。		
学 力 確 認 報 告	判 定	合 格	
結果の要旨	試問により英語学力を含む学力確認を行った結果、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認定した。		

2024年2月7日

審査委員主査

佐藤 秀紀 殿

審査委員 小松 健一



## 学位論文審査、試験及び学力確認報告書

学位申請者 菊池 健

上記の者提出の学位論文の審査、試験及び学力確認を実施した結果、合格と認定しましたので報告いたします。

学位論文 題目	抗がん薬の適正使用を行うために必要な情報に関する検討		
学位論文審査報告	判定	合格	
結果の要旨	学位論文審査の結果、本論文は本学の博士論文として相応しいものと認定した。		
試験報告	判定	合格	
結果の要旨	学位論文を中心とした関連科目についての試験を行った結果、合格と認定した。		
学力確認報告	判定	合格	
結果の要旨	試問により英語学力を含む学力確認を行った結果、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認定した。		